

特活大好き=学び続ける教師

名古屋市学校教育研究会
特別活動研究部会長

今川 雄二



子どもたちは、学級開きから今日まで、「学校大好き」「学級大好き」「先生大好き」と言っていますか。

特別活動を柱に、学級・学年・学校づくりをしている教師は、常に「学ばなければ教えられない」の気持ちをもって、子どもや保護者と向き合うように努めています。教師一人一人が目の前にいる子どもの様子から、学ぶ課題を発見し、解決に向けて実践しています。子どもたちの笑顔に出会いたがために、工夫したり悩んだり、試行錯誤を繰り返すことで、さらなる指導技術を高めています。

さる8月21日に女性会館で開催した第1回中部地区特別活動研究協議会名古屋大会で、名古屋が積み重ねてきた実践を発信しました。これからも、「特活大好き」「特活おもしろい」と言ってもらえる教師の裾野が広がられていくことを期待しています。

第1回中部地区特別活動研究協議会

名古屋市特別活動研究会 学級活動実技研修会

「豊かな人間性を育てる特別活動～楽しく豊かな学級・学校づくり、子ども同士の人間関係を深める特別活動の実践を考える～」をテーマに、中部地区から多くの仲間が集まりました。



講演

「今、特別活動に求められること」

文部科学省の杉田洋教科調査官の講演では、中部地区特別活動研究協議会の発足について感謝の言葉がありました。

そして、よりよい人間関係を築くことや、社会に参画する能力を育てることなど、特別活動に求められることを熱く語られました。そのために、話し合い活動の指導をしっかりと進めたいと呼び掛けられました。

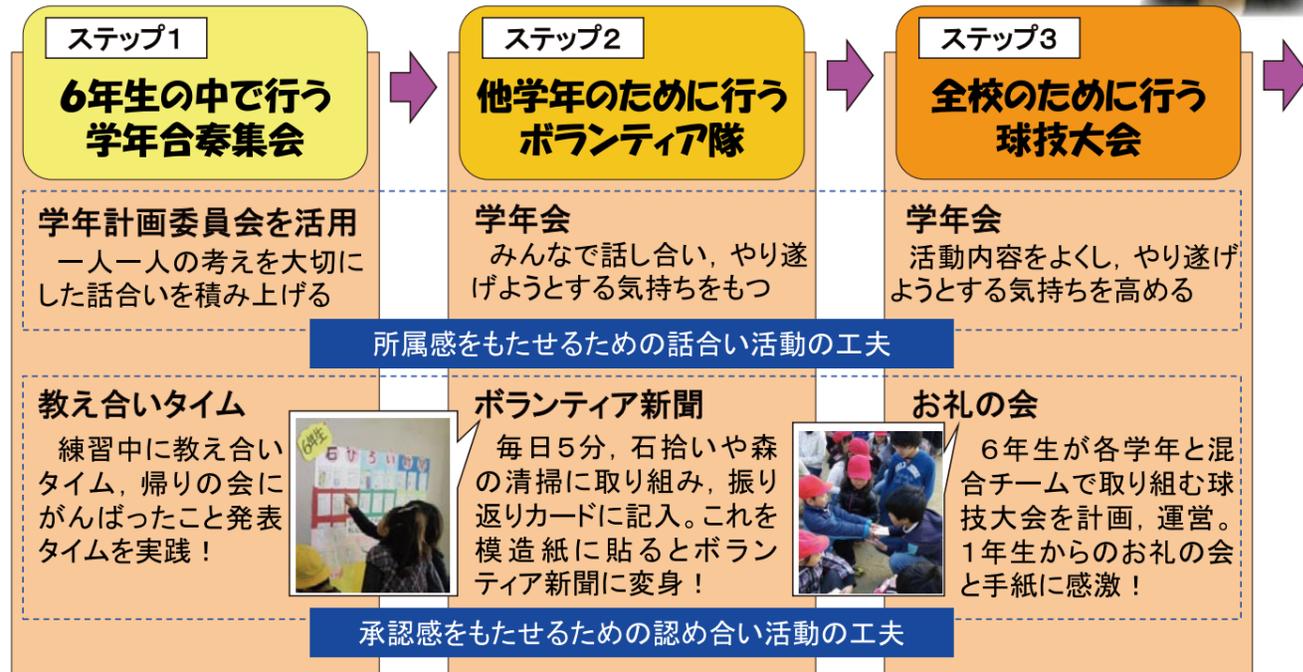
見つけた！
おもしろ実践

「所属感」、「承認感」をもたせることによって、「役立ち感」を感じさせ、全校のために力を発揮できる児童の育成を目指しました。（小学校6年）

当知小学校 古川 貴子 先生



学年、他学年、全校の役に立てたという役立ち感



ステップ1, 2, 3の順に活動の場を広げました。その取り組みの中で、話し合いを積み重ね、6年生の一員でよかったという「所属感」を感じさせました。また、様々な認め合い活動を通して、頑張りが認められたという「承認感」を感じさせました。「所属感」と「承認感」の高まりによって、役に立てたという「役立ち感」が育ちました。

【講座I】すぐに学級で実践できる実技講座

各分科会に分かれ、学級開きから3学期まで、すぐに役に立つ実践例が紹介されました。

【第1分科会 小学校低学年】

初歩的なグループ活動の進め方や、話し合い活動の座席の配置、話し合いが盛り上がる小道具などを紹介

短冊に意見を書くと、分類や整理がしやすくなります。

【第2分科会 小学校中学年】

自治的なグループ活動の進め方や、係活動でアドバイスをし合う時の話し合いの進め方を紹介

他の係からアドバイスをもらおうと、新たな発見があります。

【第3分科会 小学校高学年】

「学級の旗を作ろう」を題材に、計画委員が立てた原案を基に、学級全体で話し合う方法を紹介

「ベース案」を決めて話し合うと、みんなの意見を生かすことができます。

【第4分科会 中学校】

「学級のイメージカラーを決めよう」を題材に、意見を出しやすい話し合いの進め方を紹介

小グループで意見を出し合ってから、学級全体で話し合うと効果的です。



【講座II】中部で活躍する先生方の実践報告

中部地区で活躍する先生方の実践が4つの分科会で紹介され、熱い議論が交わされました。名古屋からは、5人の先生の実践が報告されました。

- 江西小 前田あゆみ 先生
「笑顔あふれる学級づくり」
- 当知小 今城 英康 先生
「よりよい学級づくりに自分の考えを生かそうとする児童を育成する学級活動」
- 吉根小 田村 幸久 先生
「学級生活をよりよく高めていこうとする児童を育てる学級活動」
- 比良西小 児玉 晶子 先生
「所属する集団を意識しながら自己実現を図ることのできる児童の育成」
- 名塚中 石田 秀二 先生
「自分を信じていることができる生徒の育成」



どの実践にも、先生方の工夫が散りばめられていました。特に、子どもたちの考えを活動に生かすために、考えを可視化する手だてを取り入れた実践が多くありました。

こんな手だてがありました！「学級目標の実現具合を表すレーダーチャート」

学級活動によって学級生活が向上したことを実感するために、定期的に学級目標の実現具合を評価させ、結果をレーダーチャートに表します。

レーダーチャートを見て、学級活動の成果を実感します。また、まだ学級に残されている問題を自分たちで見つけ、解決するための学級活動に取り組んでいきます。

- 月に一度、学級目標の実現具合を4段階で評価
- 評価の学級平均をレーダーチャート化
- 評価結果を基に、成果と課題の振り返り

